

# 四日間の奇蹟

2005(平成17)年5月23日鑑賞(東映試写室)



監督・脚本＝佐々部清／出演＝吉岡秀隆／石田ゆり子／尾高杏奈／西田敏行／松坂慶子／中越典子／鳥羽潤／平田満／石橋蓮司／西村和彦／小林綾子（東映配給／2005年日本映画／118分）

……人の心が他人の身体に乗りうつることがあるのか？ 医学的にそんなことはあるはずがない。そんなことはわかりきった道理。しかし映画では……？ ピアノを通じて語られる主人公たちの心の交流は、荒唐無稽な物語ながら、観客の心を熱くさせるもの。イエス・キリストの奇蹟もきっと同じようなことだったのだろうと信じ込ませてくれる佐々部監督の力量にいつもながら感服。そして主人公たちの熱演に拍手！

## 原作は、第1回「このミステリーがすごい！」大賞作！

私は全然知らなかったが、「このミステリーがすごい！」賞というのが宝島社にあるらしい。そしてこの映画の原作は、2002年の第1回「このミステリーがすごい！」大賞を受賞した浅倉卓弥による同名のデビュー作品。この作品に惚れ込んだ佐々部清監督が自ら映画化権を獲得し、脚本の執筆に1年を費やして完成したのがこの映画ということだ。

もっともこの映画のミステリー性は、一般の「ミステリー」という言葉から想像されるものとはかなり異質で、ある意味荒唐無稽(?)なもの。しかし他方、『四日間の奇蹟』というタイトルどおり、涙なくして観ることのできないすごい「ミステリー」作品となっている。

## 第1のミステリーは？

この映画のミステリーの第1は、サヴァン症候群。もっともこれは、医学上正

式に存在する病名らしい。サヴァン症候群の現れ方はさまざまらしいが、この映画のそれは、突然父と母を失った、脳に障害を持った少女楠本千織（尾高杏奈）が見せる、1度耳に聴いた旋律を一瞬にして記憶できるという症状。まるで、あの天才音楽家のモーツァルトみたいなものだ……。

ある事故によって左手の機能を失った新進ピアニストの如月敬輔（吉岡秀隆）は、こんな千織の才能を発見したため、それを開花させることが第2の人生となった。そこで始まったのが、パパの敬輔と脳に障害を持つ少女千織のコンビによる、各地の施設に赴いてのピアノ演奏による慰問。作曲家も曲名も知らない脳障害の少女が、施設に集まる多くの障害者たちの前で弾くピアノの音色は感動的。第1のミステリーはこれだ。

## 第2のミステリーは？

第2のミステリーは敬輔を初恋の人と慕い、今は小さな島の療養センターで働いている岩村真理子（石田ゆり子）と千織との間に発生したミステリー。このミステリーは、療養センターでの慰問が終わった翌日に発生した。それは、楽しく外を歩きながら語り合っていた千織と真理子を突然落雷が襲い、千織をかばった真理子は瀕死の状態となって集中治療室に送られることに。他方、真理子の防御のおかげで軽い外傷で済んだものの、千織はそのショックのためか、まったく口がきけなくなりました。ところがそれを心配しながらやさしく声をかけていた敬輔に対して突然語りかけたのは、千織の身体に心が乗り移った真理子の声だった。そんなバカな！と思いつつ、真理子が話しかける言葉を静かに聞く敬輔。あなたはこんなお話を信用できる……？ しかし、にわかに信用できないからミステリーなのだ。そして、この2つのミステリーがつくり出す美しい人間の絆の物語が『四日間の奇蹟』という映画だ。

## 吉岡秀隆、石田ゆり子、尾高杏奈それぞれの好演！

佐々部監督の作品には悪人は登場せず、いつも善良な人間ばかり……？ そんな映画はあまり面白くなくても当然なのだが、いつも感心させられるのは、善良なキャラがわかっている、それをとことんつきつめていけば、やはりそこから

本当の人間の姿が表現され観客に感動を与えてくれるということ。吉岡秀隆はいつもながらの(?) ナイーブな心と繊細な神経を持った新進ピアニストの苦悩とやさしさを熱演し、石田ゆり子はホントに誰からも愛される働き者で健気な女性をストレートに演じている。そして異色新人は楠本千織を演じた尾高杏奈。1000人のオーディションで選ばれ映画初出演ながら、脳障害を持っているため言葉もまともにしゃべれないという難役を演じている。そしてそれが監督をはじめ周囲の指導よろしきを得て(?) 堂々の演技。ひとつの明確なテーマを持って、美しい舞台設定の中で、何人かの俳優がそれぞれの心を表現すれば、感動的な映画をつくることができることをあらためて実感……。

### この映画も山口県が舞台

山口県下関出身の佐々部監督作品は、『チルソクの夏』(03年)も『カーテンコール』(04年)も下関が舞台。そしてこの『四日間の奇蹟』も、どこにあるのか私は知らないが山口県にある角島つのしまが舞台とのこと。四方を海に囲まれた周囲約17kmの小さな島とのことだが、なぜかこんな島の中に、高度脳障害の患者を集め、その家族とともに治療をしながら生活している療養センターがあった。これがこの映画のメイン舞台となるものだが、この島にある灯台や教会がすばらしい雰囲気づくりに大きく寄与している。「千織の身体に真理子の心が乗りうつる」という設定だから、スクリーン上でも突然、尾高杏奈の姿から石田ゆり子の姿に変わるシーンが登場する。さらにクライマックスの『月光』を弾くシーンでは、吉岡秀隆の姿と尾高杏奈の姿がダブっていく……。これらはある意味で荒唐無稽で多少無理のあるシーンだが、それを支えているのが幻想的な灯台からの美しい光のイルミネーション。思わずイエス・キリストの奇蹟もこうだったのではないかと想像してしまうような状況設定に、この角島という美しい島の風景が大きく寄与していることはまちがいない。

### 西田敏行も松坂慶子もとてもいい役!

西田敏行は、今年の夏も大人気の『釣りバカ日誌』シリーズ第16作でノリノリだが、一方で、こんな渋いドクター役を好演。「信じてやればいい。信じるとい

うことは、人間の脳に与えられた偉大な力のひとつだぞ」という彼のセリフが何とも説得力をもって心につきささってくる。『敦煌』(88年)での重厚な演技といい、この『四日間の奇蹟』での人間味あふれる演技といい、彼には喜劇俳優以外の本来の良さをもっともっと発揮してもらいたいものだ。他方、松坂慶子。彼女については5月21日に観た『桃色』(04年)でかなり酷評してしまったがこの映画では、チョイ役ながら年相応の温かみのあるいい役を。『桃色』でのチャイナ服とケバイ化粧の役より、こっちの方がよっぽどいい。そしてこんな一流スターの下支えがあってこそ、この映画のよさも生きてくるというものだ。

## 脇役も充実

療養センターの所長の藤本正造を平田満が演じ、センターに収容されているガンコな患者の長谷川隆を石橋蓮司が演じている。この長谷川隆の娘未来(中越典子)は療養センターの看護師。真理子を心から尊敬して働いている健気で前向きな女性。そして未来の恋人が、調理師をやっている萩原誠(鳥羽潤)だ。この未来は、目の前に起きている奇蹟を信じる事ができないまま、一瞬かなり残酷な言葉を口にする事に……。しかしそれがむしろ普通の間人というものだろう。

また真理子も順風満帆の人生ではなく、さまざまなつらい人生であったことが、この映画の中でうまく語られていく。別れた夫の後藤則幸(西村和彦)はやさしい男だったが、田舎の老舗旅館に嫁いだ以上、跡取りをもうけるのは絶対的な義務……。したがって子供に恵まれなかった真理子は……。真理子が臨終間近と聞いて療養センターに駆けつけてきたその後藤や跡取り息子を抱いた再婚した妻の後藤小夜子(小林綾子)の登場など、さまざまな脇役をうまく配しながらストーリー全体の厚みを重ねていく手法は立派なもの。充実した脇役の存在も、いい映画を完成させるために不可欠の条件だ。

## ピアノ曲の使い方は抜群!

ベートーベンの『月光』やショパンの『別れの曲』はピアノ曲として誰もが知っているものだし、ドヴォルザークの『交響曲第9番「新世界より」』の第2楽章で使われる『家路』の美しいメロディーも有名なもの。しかしそんな有名な美

しい曲であっても、普段忙しい日常生活にかまけていると(?)、それをゆっくり味わうことはほとんどできないもの。しかしこの映画を観ていると、診療所の老人たちの慰問のためのピアノ演奏会ながらも、じっくりとこんなピアノの小曲を聴くことができる。この映画に出演するため約5カ月の練習期間で、ホンモノのピアニストと同じように(少しだけ)ピアノを弾いたり、手指の形をつくりあげたという俳優吉岡秀隆の役者根性にも感心!

## 『カーテンコール』と『四日間の奇蹟』

佐々部監督の作品は、『陽はまた昇る』(02年)、『チルソクの夏』(03年)、『半落ち』(04年)と好調で、実はこの『四日間の奇蹟』の前にすでに『カーテンコール』(04年)が完成している。しかしなぜか上映は『四日間の奇蹟』の方が先となり、『カーテンコール』は今年秋の公開予定。この『カーテンコール』も私はすでに4月5日に観たが、これがまた大感動作。6月以降は『カーテンコール』上映に向けて、応援部隊として少しでも役に立ちたいと考えている。佐々部監督にはこれからも次々と感動作を手がけてもらいたいものだ。

## 「Eternally」はちょっと難しすぎ……?

2004年の日本レコード大賞最優秀新人賞は『さくらんぼ』を歌った大塚愛に決定した。私の予想では絶対「Jupiter」を歌った平原綾香だったが、やはり大塚愛の方が若者の人気が高かったのだろうか……? 新曲対応能力(?)と吸収能力(?)の高い私だが、ここ1年ほどは友人・知人からのCD、MD、カセットテープの供給が途切れているため勉強不足で、この「Jupiter」もちゃんと歌えないありさま。しかしこんなものはMDと歌詞カードさえあれば、東京出張の間にパーフェクト……? それとはともかく、『四日間の奇蹟』の主題歌「Eternally」を歌うのがこの平原綾香で、パンフレットにはその歌詞も載っている。きつといい歌だろうと思い、よしこれを覚えてやろうと意気込んでいたのだが、これはちょっと難しすぎ……? 2005(平成17)年5月24日記

※本作品は産経新聞2005(平成17)年6月17日付「That'sなにわのエンタメ」でも紹介しました(本書195頁に記事転載あり)。